

りとは云なりと云々。

〔大神宮參詣記〕康永元年十月十日あまりのころ、大神宮參詣のこゝろざしありて、○中松風いとさむき三渡の濱にもつきぬばるかなる入海にむかひて、旅行の人やすらふにことへば、とをき道をめぐらじとて、沙のひるまをまち侍るなりとこたへしかば、ときうつる程、かしこに休み侍りて、心にうかむことを口にまかせて申すてぬ、

渡口無船憩樹陰 漁村煙暗日沈々 寒湖歸去途程近 又有松濤驚客心

〔雲葉和歌集六〕百首歌たてまつりし時、古渡月、

いせの海の沙のひかたの見渡にいそがすやどる秋夜の月

〔松葉名所和歌集十三〕三渡 伊勢

みわたりの月は秋なる波の上にまだほに出ぬ伊勢の濱荻

いせの海のみわたりかくる浪間より數もかくれぬあの、松原

〔伊勢參宮名所圖會三〕七里渡 舊名は間遠まとをの渡わたりといふ、天武天皇尾州熱田遷幸の時、此渡海長きによりて、間遠也と仰ありて、著岸を待兼給ひしより、

〔古歌〕有明の月に間遠のわたりして里に急がぬ夜半の舟人

不知讀人

此渡りは伊勢尾張の境、木曾川の落合此に入る、風あしき時は尾州佐谷に廻るべし、行程三里、有又佐谷よりの陸地は、神守鳥森をへて熱田へ出る也、

〔東海道名所圖會二〕間遠渡口 桑名七里の

〔東海道名所圖會三〕張宮 热田宮の略訓なり、○中濱邊は桑名渡口の船著にして、領主の監船所あり、○中熱田宮の濱鳥居、高檣の神燈は、海上渡船の極アテとす、

〔勢陽五鈴遺響桑名郡四〕桑名涉 同府○桑ノ東北ヨリ尾州愛智郡熱田驛ニイタル、海路七里餘、東街道ノ官道ナリ、俗桑名ノ涉ト云、○中船ノ岸ニ纜ス處ヲ船場ト稱シ、大鳥居一基ヲ建及